

事業概要書

事業テーマ	商店街の空き店舗を活用した商店街活性化事業
概要	商店街の空き店舗を活用し、子どもや子育て世帯が集まる場を設置する。そして、集まった人々が商店街を利用し、商店街が活性化する仕組みづくりを行う。
1 テーマを提案した理由	
近年、大規模商業施設や通信販売の利用などから、市内商店街の空き店舗が目立つようになり、商店街自体のイメージも空洞化により悪化する可能性がある。 また、令和2年度に実施した商店会長向けアンケート調査によると、空き店舗が存在する商店街の中で、空き店舗について「問題視しているが対策を取れていない」という商店街が5割以上あり、商店街単独で取れる対策として限界がある。 さらに、商店街は商業活動を行うだけではなく、地域住民の交流の場や商店による見守りの役割も担っている。空き店舗を活用した事業を行うことで、これらの役割を果たし地域課題に取り組みつつ、商店街のにぎわいを創出し、商店街全体の活性化につなげていきたい。	
2 想定する提案イメージや役割	
【提案イメージ】 商店街の空き店舗を活用し、子どもや子育て世帯が集まる場を設置し、利用回数に応じてポイントを付与し、商店街内で使える割引券を発行するなど、集まった方々が商店街を利用しやすくなる仕組みづくりを商店会と共に協力してつくる。 【市の役割】 府中市商店街連合会を通して商店会長に情報提供を行うなど調整する。また事業の周知を行う。 【市民の役割】 空き店舗を活用して子どもや子育て世帯が集まる場を創設し、管理、運営する。さらに、その場に集まった人々が商店街を利用しやすくなる仕組み（利用回数に応じてポイントをもらい、商店街内で使える割引券をもらえる等）を商店会と共に協力してつくる。	
3 現状や課題	
【現状】 令和2年度に行った商店会長向けのアンケート調査によると、商店街内の空き店舗件数が3店舗以上ある商店街が4割以上あり、空き店舗対策は、特段行われていない状況 【課題】 ・空き店舗を活用する際、その商店街の立地特性に合わせたターゲットとなる対象者の設定を行い、事業展開する必要がある。 ・空き店舗を活用して事業を行うだけではなく、そこに集まる人々が商店街を利用しやすくなる仕組みづくりを商店や商店会を巻き込んでつくる必要がある。	

4 協働により期待する効果	
空き店舗を活用し、地域住民の交流の場や見守りの役割を果たす場としつつ、そこに集まる人々が商店街を利用しやすくなる仕組みづくりを商店会と行うことで、商店街を利用するきっかけをつくり、商店街を身近な存在に感じてもらい、最終的には商店街の活性化を期待する。	
5 効果の測定方法（4の効果をどうやってはかることができるか）	
空き店舗を活用して集まった人々が、商店街を利用しやすくなる仕組み(イベント等)に参加した人数で測定する。	
6 提案者に求めるもの	
空き店舗を活用し、地域住民の交流の場や見守りの役割を果たしつつ、そこに集まる人々が商店街を利用しやすくなる仕組みづくりを提案し、商店会と調整を行うことができる。 また、子どもが集まる場として空き店舗を活用する際は、年齢層によっては安全に預かれる環境（保育士の確保等）をつくることことができる。	
7 その他留意点	
空き店舗を活用した事業展開の内容によっては、関係課との調整が生じる可能性がある。	
8 担当課	生活環境部 産業振興課 商工係 電話：042-335-4142 mail:shoukou@city.fuchu.tokyo.jp